

校長室だより 2021 年度6月号

Be creative !



3年 岡島 貫太君 TOKYO2020へのチャレンジを振り返る

3年生に在籍する岡島貫太君の高校3年間は TOKYO2020 パラリンピックへの出場にかけた3年間でもありました。その闘いに一応の決着の着いた今、どんな心境でいるのか、今後の目標は何か、インタビューをしました。良き先輩、良き体験に恵まれた3年間で語られました。



★競技としての水泳を意識し始めたのはいつですか。

水泳そのものを始めたのは5歳です。姉がスイミングクラブに入っていて、自分も同じところに通いました。競技として頑張ってみようと考え始めたのは中学校1年生ぐらいの時です。ネットで「ジャパンライジングスタープロジェクト」という企画を見つけたんです。そこに参加するとそのスポーツに関わる専門的な知識や技術を教えてもらうことができると知り、自ら応募しました。これが競技としての水泳への関わりが始まりになりました。

★パラリンピックへの出場を本格的に自分の目標に据えたのはどういう経過ですか。

「ジャパンライジングスタープロジェクト」の取り組みを通して、1年間、書類選考や面接、実技の測定などを繰り返しながら、合宿に参加できる選手として選ばれていきました。その合宿は中学2年生から、中学校3年生に渡る1年間ぐらいの中で何回か実施されたのですが、技術的にも、また知識の面でも専門的な指導を受ける中で、パラリンピックに出場しよう、メダルを取りたいという意欲が湧いてきました。そして、中学3年生の時に、パラリンピックの育成選手に選ばれることができました。そのあと、日本福祉大学付属高校に入学しました。

★東京パラリンピックまでの4年間の挑戦の中でうれしかったことや苦しかったことは

うれしかったことはやはり大会に出て、よい記録が出て、メダルをもらったことです。苦しかったということは、あまりないですね。どうしてかという、水泳が好きだからだと思います。もちろん、練習がきつくて、苦しいというのは実際にはありますが。

★思うように記録が出なかつたりした時もあったと思うのですが、焦ったりはしましたか。

焦らなかつたって言うと多分嘘になりますが、「なんとかなる」と思って自分を信じました。自分の性格かもしれませんが、僕はあまり考えすぎないタイプで、悪く言えば、何も考えていない、でも、物事を難しく考えないで、どんな時も自然体でいられるということでもあるのかなと思っています。それが水泳という競技にもうまく生かされているように感じています。

★日常の生活でも同じような感じですか。

いや、日常の生活ではもう少し考えて行動をするべきかなと思っています。(笑)

★自分が目標とする選手はいますか

自分と同じパラ水泳の50メートル自由形の選手で、先輩にあたる山田拓朗選手です。

めちゃめちゃタイムも早いし、外も中もイケメン、人間としての内面が本当にイケメンなんです。優しい。大人の



余裕を感じさせてくれます。自分にとってあこがれのスターです。彼は強化選手で、自分が目指す目標となる人です。

★抽象的な問いになりますが、岡島君にとって水泳って何ですか。

なんて言っていないかわからないけど、水泳がない生活や自分は想像ができない。水泳がなくなったら、自分がなくなっちゃう、全部なくなっちゃうって感じかな。

★高校進学の際、どのような視点で本校を選びましたか。

ジャパンライジングスタープロジェクトの育成選手に日本福祉大学の先輩がいらっやって、コーチにその人を紹介してもらいました。日本福祉大学での生活や将来の可能性などの話も聞き、自分も福祉大学に進学したいと思って、この高校を選びました。大学入学後も水泳部で頑張ることが目標です。

★2024パリ大会に向けて、どのようなことを考えていますか

もちろん出場目指して頑張ります。課題はピッチを上げて泳ぐことが出来るようになること。それと、自分は姿勢があまりよくないので、飛び込みの姿勢をよくすること。タイム的にはまだ1.5秒ほど縮めなきゃならない。50メートルで1.5秒縮めるのはかなりきつい、でも、これ以上のことがやれないとパリには行けません。

★将来はどんな選手になりたいですか

今、お世話になっている先輩たちは本当に後輩思いの人たちばかり。その人たちは本当に人に慕われている。振り返ってみると、自分は人に恵まれてきたなあと思う。姉の存在もそうですが、合宿や競技を通して、自分が尊敬する先輩たちに出会えました。中学1年生のときにジャパンライジングスタープロジェクトにチャレンジしたことが、自分の大きな起点になったんだと思います。育成選手になるまではあまり無理なく、スムーズにこられたように思っています。今、ちょっと伸び悩んで、壁に突き当たっているのかな。いよいよここから、いろんな課題が自分にやってくるんだなって思います。

★この2021年度には大きな大会は控えていますか。

もし、あればの話ですが、この秋に、アジア・ユース・パラがバーレーンで開催される予定です。コロナ禍なので、開催されるかどうかわかりませんが、代表に選ばれて、出場できるといいなあと思っています。

★最後に、今後の抱負を語ってください。

(少し沈黙の後)こうした質問はかなり苦手ですが、頑張っって答えます。これからは後輩が自分にもできてくるので、自分が出会った先輩たちのように、若い選手に慕われ、世界で活躍できる選手になりたいと思います。

—2024パリパラリンピック、期待し、楽しみに待っています。頑張れ！岡島君！



今月の言葉 「今の付属高校の水泳部をどう見えていますか。」の質問に答えて

とにかく部としての雰囲気がいい。マネージャーさんの励まし、声かけが大きい。マネージャーの二人に支えてもらっていることで、みんなが頑張れている。競技としてよいタイムを出して強くなっていくことも目標ですが、人としても学校を代表していけるような存在になっていきたいという目標を水泳部全体で持ちながら活動しています。



日本福祉大学付属高等学校3年生 岡島 貫太